

長崎県警を揺るがす男が実名、顔出しで告発

筆者 - 寺澤有

2010 年 7 月 21 日(水曜日) 16:30



7月3日、『長崎新聞』は社会面トップで、「逮捕情報事前に漏らす」「諫早署の巡査部長 元容疑者と不適切関係」「『小遣い』も受け取る」などと報道した。それによると、「男性巡査部長（58）が、事件を担当した容疑者の男性（60）と懇意になり、強制捜査前に捜査情報を漏らしたり、県警の内部情報を教えて『情報料』『小遣い』として金銭を受け取るなどの関係を長年続けていた」という。

『長崎新聞』では匿名だが、巡査部長は「鳩本隆文」、元容疑者の男性は「竹下周志（たけした・ちかし）」という名前である。さっそく筆者も長崎へ赴き、竹下氏にインタビューした。

——鳩本巡査部長と知り合ったキッカケを教えてください。

竹下氏 1995年6月、女性2人を殴打したとして、暴行容疑で長崎県警大浦署に逮捕されました。そのとき、取り調べを担当した1人が鳩本巡査部長でした。

——取り調べは、どんな感じでしたか。

竹下氏 私は女性を暴行していないので、無罪を主張していました。しかし、鳩本巡査部長の上司の警部補は「暴行を認めないならば、商売ができないようにしてやる。子どもが学校へ行けないようにしてやる」と自白を強要しました。鳩本巡査部長は居眠りばかりしていて、やる気がないようにでした。

——暴行事件の刑事処分は、どうなりましたか。

竹下氏 女性1人に対する暴行容疑は不起訴。もう1人に対する暴行容疑で起訴され、私は無罪を主張し、長崎簡易裁判所、福岡高等裁判所で争いましたが、罰金10万円の刑が確定しました。

——鳩本巡査部長と親しくなった経緯は？

竹下氏 暴行事件の家宅捜索のとき、鳩本巡査部長の上司の警部補らが不注意で家具を壊したんです。鳩本巡査部長が仲介してくれて、2年後ぐらいに長崎県警が1万5000円を弁償しました。それで親しくなったんです。

——その後、鳩本巡査部長から接待を要求されるようになったと。

竹下氏 はい。私は酒が飲めないんですが、居酒屋やスナックでおごりました。鳩本巡査部長の行きつけの店でボトルを入れてあげたこともあります。加えて、女性絡みの接待です。鳩本巡査部長は「女遊びのプロフェッショナル」ともいえる男でしたから。私のベントツで福岡や北九州の歓楽街へ出かけたこともしばしばです。

——接待では、総額、いくらぐらい使ったんですか。

竹下氏 150万円から200万円ぐらいです。

——そのほかに鳩本巡査部長に小遣いも与えていたんですか。

竹下氏 ええ。数千円から数万円を現金で手渡したり、鳩本巡査部長の銀行口座へ振り込んだりしていました。総額数十万円になると思います。

——そういう関係は、いつごろまで続きましたか。

竹下氏 1～2年ぐらい前までです。

——接待や小遣いの見返りに、鳩本巡査部長は何かしてくれましたか。

竹下氏 私は暴行事件をでっち上げられ、長崎県警を恨んでいます。だから、県警内部の情報を得て、仕返しできたというのがあります。そのため、鳩本巡査部長からもいろいろ話を聞いていました。

——実際、鳩本巡査部長の情報で県警に仕返しできたことがあったんですか。

竹下氏 長崎くんち（諏訪神社の祭典）に出店する露店から長崎署が「場所代」を徴収しており、しかも、その一部が使途不明になっているという情報を得て、マスコミへ流しました。2000年7月、地元ではもちろん、全国でも大きく報道されました。

——『長崎新聞』の記事によると、「県警が2005年に摘発した旧西彼三和町発注の公共工事をめぐる談合事件では、強制捜査前に巡査部長が男性に『役人と業者がパクられる（逮捕される）』と電話で伝えてきた」ということですが。

竹下氏 そのとおりです。鳩本巡査部長から強制捜査の情報を聞き、当時の西彼三和町長、高比良元氏（現長崎県議会議員）と、「パクられる」と名指しされた管財課長に教えました。

筆者の取材に対し、高比良氏は「管財課長が逮捕されるという話は覚えていませんが、業者が逮捕されるという話は事前に竹下さんから聞きました」と答え、元管財課長は「竹下さんから連絡をもらい、身に覚えがないので、『何で私が逮捕されるのか』と思いました。1カ月後に本当に逮捕されました」と答えた。

長崎県警は金銭授受を確認するも、スキャンダル隠ぺいへ

筆者 - 寺澤有

2010年 7月 23日(金曜日) 16:20

長崎県警察本部の内部の情報を得るため、長年、鳩本隆文巡査部長（諫早署）を買収していたと告白した男、竹下周志（たけした・ちかし）氏（59歳。長崎市在住）。《長崎県警を揺るがす男が実名、顔出しで告発》の記事で報道したとおり、現在、地元でもマスコミが追及をはじめている。

竹下氏は、「（総額）150万円から200万円ぐらい」と証言する酒や女の接待のほか、「数千円から数万円を現金で手渡したり、鳩本巡査部長の銀行口座へ振り込んだりしていました」と証言する金銭授受も行っていたという。

「当初、鳩本巡査部長も警戒していて、カネを振り込むときは、彼のいとこの『フクオカ ダイスケ』名義で振り込むよう指示されました。そのために十八銀行で『振込カード』も作成しました」（竹下氏）

振込カードを見ると、確かに「ご依頼人」が「フクオカ ダイスケ」となっている。しかし、その「電話」の「090-1929-7242」は、竹下氏の携帯電話の番号である。

「この振込カードで、いくら振り込んだのかは、正直、覚えていません。それぐらい、たびたび振り込んでいましたから」（竹下氏）

後年、鳩本巡査部長の警戒心が解け、竹下氏は自分の十八銀行の口座から直接、振り込みを行う。その一部は「ご利用明細票」で確認できる。写真は「平成20年07月02日」のもの。竹下氏から鳩本巡査部長へ「¥80,000」が振り込まれたことがわかる。

金銭授受について、竹下氏は長崎県警から事情聴取を受けている。そのさい、警察官が「鳩本の銀行口座を調べた」として、竹下氏から振り込みがあった年月日と金額を示したという。竹下氏のメモによれば、以下のとおりだ。

寺澤有がニュースサイト『インシデンツ』で報道してきた竹下周志に関する記事

18bank キャッシュサービス
十八銀行 ご利用明細票

毎度ご利用いただきありがとうございます。
ご利用の明細は下記のとおりでございます。
どうぞお確かめください。なお、裏面のご案内
もあわせてご確認ください。

お取引種別 お引出	取扱い店 BK262	お取扱日 12200702		
銀行コード 0180	支店コード 2600	科目 269055**	口座番号 0000	カード番号
347				
お取引金額 ¥80,000		ご利用手数料 ¥210	おつり	
お取引一連番号 0377517 0		現在残高 ¥739,703		
(18)からのご案内(またはお振込内容)				
十八銀行				
福江支店				
普通 625505				
ハトモト タカフミ 様				
ご依頼人 タケシタ チカシ 様 電話番号 892-0695				
お取扱店：三和町支店 『三和行政センター出張所』 11:55				

「お取引種別」欄に「C」の表示がある場合はキャッシングを表わします。

平成17年09月08日 2万円

平成19年03月13日 2万円
平成19年10月10日 5000円
平成19年11月21日 5000円
平成20年01月30日 2万円
平成20年02月07日 1万円
平成20年02月15日 5000円
平成20年03月12日 2万円
平成20年07月02日 8万円

合計で9回、18万5000円が振り込まれている。しかし、竹下氏は、こう憤る。

「警察官が『これらは賄別とかお祝いとか儀礼的なもので、情報料とか小遣いとか、そういう趣旨ではありませんね』と誘導するんです。不祥事を小さく抑えて、上層部が責任をとらなくてもすむよう画策しているんです。私は自分で『賄賂』と認めているのに」

過去、警察がスキャンダルを隠ぺいしようとしたため、かえって大きなスキャンダルへ

寺澤有がニュースサイト『インシデント』で報道してきた竹下周志に関する記事

発展したこともある。はたして、今回はどうなるのか。長崎県警のお手並みを拝見だ。

長崎県警を揺るがす男が日本刀を持って交番へ自首

筆者 - 寺澤有

2010年 7月 28日(水曜日) 20:50



長崎県警察本部の内部の情報を得るため、

長年、鳩本隆文巡查部長（諫早署）を買収していたと地元マスコミや本サイトで告白した竹下周志（たけした・ちかし）氏（59歳。長崎市在住）。現在、竹下氏は銃刀法違反容疑でも長崎県警の事情聴取を受けている。その経緯を竹下氏にきいた。

「10年ぐらい前、鳩本巡查部長が『遊ぶカネがないから、買ってくれないか』とサーベル1本を持ってきました。『情報料』提供の一環として1万円で購入しました。2008年8月下旬にも、鳩本巡查部長から脇差し2本の購入を持ちかけられ、合計1万5000円で買いました。ところが、2008年暮れか2009年はじめ、知人の元長崎県警警部補・中倉明彦氏から『銃刀法違反になる』と指摘されたんです。処理に困り、2010年6月1日13時、『違法な刀剣類を所持している』と110番通報しましたが、警察官が来ないので、こちらから近所の三和町交番へサーベルと脇差しを持参し、自首しました」

この様子は竹下氏の家族がビデオカメラで撮影している。竹下氏は「犯罪事実につき、申告にまいりました」「これはヤクザもんから取り上げたもんという話でした。鳩本が言うには。それを私が買ってたんですよ。中倉という元の警部補から聞いたところ、違法なものだっていうもんだから」「指紋がついとるけん。鳩本さんの」などと説明するが、三和町交番の警察官らは困惑顔だ。

竹下氏が銃刀法違反で自首してからも、長崎県警の動きは鈍かった。

「私が鳩本巡查部長へ情報料を提供していたことが、7月3日、地元マスコミで大きく報道されます。それからです。私が警察に銃刀法違反容疑で事情聴取を受けたのは」

竹下氏の銃刀法違反を捜査していけば、必然的に鳩本巡査部長も様々な犯罪容疑で取り調べなければならない。この間、長崎県警はスキャンダルを隠ぺいする工作に迫われ、銃刀法違反の捜査が行えなかったのではないかと推測される。

今後も竹下氏をめぐる長崎県警の動きに注目していきたい。

長崎県警鑑識課はハメ撮り写真の現像所だった

筆者 - 寺澤有

2010年 8月 12日(木曜日) 22:00



男性が性交中に、その様子を撮影することを「ハメ撮り」というが、ここに掲載しているハメ撮り写真は、竹下周志（たけした・ちかし）氏（59歳。長崎市在住）が長崎県警察本部の鳩本隆文巡査部長から買わされたものだという（現物はモザイクなし）。

「2000年ごろ、鳩本巡査部長が（長崎県警本部刑事部）組織犯罪対策課に勤務していたとき、自分と愛人（同巡査部長は既婚）のハメ撮り写真や彼女の性器がアップになった写真、合計十数枚を持ってきて、『5000円で買わないか』と言いました。私は鳩本巡査部長を接待したり、カネを渡したりして、長崎県警の内部の情報を得ていたので、その場で現金5000円を払い、写真を買ったんです」

それらの写真を見ながら、竹下氏が「街中の現像所では、こういう（公序良俗に反する）写真はプリントできないと思うが、どうしたのか」と尋ねると、鳩本巡査部長は「（長崎県警本部刑事部）鑑識課で若いやつにプリントさせた」と答えたという。

警察法第37条で、都道府県警察に要する経費でも、犯罪鑑識に要する経費は、「国庫が支弁する」と規定されている。つまり、ハメ撮り写真などのプリントに、長崎県民のみならず、日本国民全体の税金がムダに使われていたわけである。

寺澤有がニュースサイト『インシデント』で報道してきた竹下周志に関する記事

しかも、鳩本巡査部長が鑑識課でプリントした写真十数枚は、誰がどう見ても、犯罪とは関係がない、個人の「趣味の写真」だ。これらがすんなりプリントされたことからして、鳩本巡査部長以外にも、鑑識課で「趣味の写真」をプリントしていた警察官がいたとしても不思議ではない。

7月以降、竹下氏は鳩本巡査部長に対する金品提供などで、長崎県警から事情聴取を受けている。

「ハメ撮り写真も警察へ提出し、それに関する調書も作成しています」（竹下氏）

8月12日、筆者はハメ撮り写真について、長崎県警本部に取材を申し込んだが、「現在、（警務部）監察課が調査中の案件なので、お答えできません」（同部広報相談課）ということだった。

長崎県警が身内に大甘な処分 取材も拒否

筆者 - 寺澤有

2010年9月09日(木曜日) 20:05

警察の内部情報を提供する見返りに、民間人からカネを受け取り、接待を受け、暴力団から取り上げた日本刀や自分と愛人のハメ撮り写真まで売りつけていた長崎県警察本部の鳩本隆文巡査部長（59歳）。本サイトでくり返し追及してきた。

9月9日、長崎県警は鳩本巡査部長を停職3カ月の懲戒処分とし、同巡査部長は依願退職した。また、長崎県警は鳩本巡査部長を地方公務員法（守秘義務）と銃刀法の違反の容疑で書類送検した。

上掲の記事を読めばわかるとおり、鳩本巡査部長の行為は収賄そのもの。同容疑で逮捕し、懲戒免職とするのが当然だ。それなのに、わざわざ軽い罪で書類送検し、依願退職を認めて税金から退職金まで支払うというのであるから、あいた口がふさがらない。あいかわらず警察は身内の犯罪に大甘だ。

しかも、長崎県警は鳩本巡査部長の処分に関し、実名を発表していない。9日夕方、筆者が長崎県警の広報相談課の取り次ぎで監察課へ電話すると、「実名は発表していない。その理由は説明しない。電話での取材は受けない」（長谷川伸彦次席）という対応だった。

鳩本巡査部長に対する贈賄をくり返していたが、今年、長崎県警へ自首し、筆者の取材に応じた竹下周志（たけした・ちかし）氏（59歳。長崎市在住）は、こう憤る。

「私は警察の事情聴取でもハッキリと贈賄を認めています。それが、どうして隠ぺいされてしまうのか。15年前、私は警察にでっち上げで逮捕され、シロをクロにされましたが、警察は、クロをシロにすることもできるんです」

「長崎県警を揺るがす男」がネズミ捕りに抗議



筆者 - 寺澤有

2012年6月22日(金曜日) 06:05



警察の不正や腐敗、弱い者いじめを見て見ぬフリをしていると、自分にツケがまわってくることもある。長崎市在住の竹下周志（たけした・ちかし）さん（61歳）も、そんな1人だったかもしれない。

竹下さんは、1995年6月に長崎県警察本部大浦署に暴行容疑で逮捕された。否認するも、「警察官から『暴行を認めないならば、商売ができないようにしてやる。子どもが学校へ行けなくないようにしてやる』と脅され、自白調書を作成されてしまいました」という。裁判で無罪を訴えたが、罰金10万円の刑が確定する。

以降、竹下さんは長崎県警の在り方を正すべく、私財を投じて、体を張って、活動してきた。その成果の一部は、『インシデント』でも記事にしている（キーワード「竹下周志」で検索）。筆者は竹下さんを「長崎県警を揺るがす男」と名づけた。

先日、上京してきた竹下さんから動画を提供された。1月11日に長崎市内で警察官がネズミ捕り（速度違反取り締まり）をしていたので、抗議したのだという。

「ネズミ捕りは、警察官が身を隠して、待ち伏せして、速度違反を取り締まるものです。これが交通安全を考えた、本来の警察官の仕事といえるでしょうか。検挙数や反則金を稼ぐために行われているとしか思えません」

パソコンやインターネットが発達している現在、こういう方法で警察を告発するのも有効だと思われるので、動画を編集して公開する。

「長崎県警を揺るがす男」が国賠訴訟を提起へ



筆者 - 寺澤有

2012年 11月 08日(木曜日) 19:55

『インシデント』で「長崎県警を揺るがす男」として取り上げ、登場する動画が You Tube（ユーチューブ）で好評を博している竹下周志（たけした・ちかし）さん（61歳）。

そもそも竹下さんが長崎県警に復讐を誓う原因となったのが、1995年6月、暴行容疑で大浦署に逮捕されたこと。竹下さんは「暴行はしていない」と無罪を主張し、長崎簡易裁判所、福岡高等裁判所で争ったが、罰金10万円の刑が確定した。

以来、竹下さんは「警察に正義はない」と、長崎県警の悪事を暴き続けている。

最近になり、関係者の話などから、竹下さんは、自分が警察とその協力者にハメられて逮捕されたことを知る。自分の名誉を回復するため、竹下さんは、「明るい警察を実現する全国ネットワーク」の清水勉弁護士らに相談。長崎県警の違法な捜査で損害を受けたとして、11月9日、長崎地方裁判所に国家賠償請求訴訟を提起することとなった。

「自白を強要され、とても悔しかった」と竹下周志さんが記者会見



筆者 - 寺澤有

2012 年 11 月 10 日(土曜日) 01:45



11月9日、長崎市在住の自営業、竹下周志（たけした・ちかし）さん（61歳）と父（84歳）、姉（64歳）の3人が、「拳銃摘発を狙った違法な見込み捜査に端を発する人権侵害」を受けたとして、長崎県（長崎県警）を相手どり、1200万円の損害賠償を請求する訴訟を長崎地方裁判所に提起した。

1995年6月、竹下さんは女性2人を殴打したとして、暴行容疑で長崎県警大浦署に逮捕され、竹下さんと父、姉の3人の自宅などが家宅捜索された。その後、竹下さんは女性1人に対する暴行罪で起訴され、無罪を主張したが、福岡高等裁判所で罰金10万円の刑が確定する。もう1人の女性に対する暴行容疑は不起訴処分だった。

訴状によると、竹下さんに恨みを持つ大浦署の捜査協力者が、暴行の被害者とされる女性2人に対し、「金を貸してやるから、竹下を加害者とする被害届を警察に出せ」と指示し、大浦署には「竹下が拳銃を所持し、覚せい剤を使用し、大麻の栽培もしているらしい」と虚偽の説明をしたという。その結果、強制捜査が行われ、大浦署は捜査協力者にだまされたことに気づいてのちも、竹下さんが有罪になるよう証拠を捏造し、送検したとしている。

提訴後、竹下さんは代理人の清水勉弁護士、堀敏明弁護士とともに長崎市内で記者会見した（写真左から清水弁護士、竹下さん、堀弁護士）。

清水弁護士は「1995年3月に國松孝次警察庁長官が銃撃され、警察は拳銃の押収に躍起になった。現場の警察官にノルマが課せられ、暴力団と取り引きして、拳銃を提供させるという違法行為も横行した。そういう状況で竹下さんの事件が引き起こされた」と指摘。

堀弁護士も「被害女性の衣服が破れた位置とケガの位置が異なるなど、証拠が捏造された疑いがある。暴行の被疑事実と関係のない場所まで家宅捜索しているのは、拳銃押収が目的だったため」と説明した。

竹下さんは「私が逮捕されてから、被害者とされる女性の1人は被害届を取り下げ、もう1人についても暴行の事実がないことを、警察は知っていた。にもかかわらず、警察官は『おまえも娘も社会に出られないようにしてやる』などと脅し、自白を強要した。とても悔しかった」と話した。

「裁判では、警察の捜査協力者の証人尋問も考えている」（清水弁護士）とし、「違法な捜査の実態が明らかになることに期待する」（竹下さん）とした。